

## 書評

## 「絵で見る資源リサイクル」(全6巻)

著者：本多淳裕

発行：(財)クリーン・ジャパン・センター  
資源リサイクルシステムセンター

定価：各巻2,000円

評者：小山 清 (大阪市立工業研究所研究副主幹)

産業廃棄物の問題は、単に生産プロセスから生ずる廃棄物をいかに処理するかという問題にとどまらず、現代文明が直面する課題として大きく捉えるところから始めなければならない。環境庁の環境白書のなかでも、自然と人間とが共生して、循環を基調とする経済社会システムを持つ持続的発展が可能な文明に変えていくことが必要なのである、と指摘している。

しかし、一概に廃棄物のリサイクルといっても、多くの分野があり、一つの書物でそのすべてをカバーすることは困難ではあるが、このシリーズではリサイクルを社会の隅々にまで定着させるために、消費生活、工業生産、農林水産、建設事業、地方自治などの取り組みについて6分冊にして解説されている。

シリーズ1では、「消費生活とリサイクル」として、新しい時代の生活者とは？「ゴミを出さない社会」「ゴミを再利用できる社会」のために消費者は何ができるのだろうか。消費者の視点からリサイクル社会への転換の必要性とその具体的な手法について解説している。

シリーズ2では、「工業生産とリサイクル(総論)」として、新しい生産システムへのパラダイム転換を指し示している。工業生産そのものが、資源を収奪し、環境を劣化させる側面と隣り合わせにあることを忘れてはいなかったらうか。日本の産業界は、環境監査

の導入や廃棄物問題など、資源浪費経済から資源リサイクル経済への変革を迫られている。新しい工業生産システムへのパラダイム転換を指し示している。

シリーズ3では、「工業生産とリサイクル(各論)」として、容器包装リサイクル法、製品アセスメントの導入など日本のメーカーにとってリサイクルは緊急課題となっており、主要産業別にリサイクルの具体的手法とアイデアを示した、業界別ノウハウを集約、リサイクルの実践を解説している。

シリーズ4では、「農林水産とリサイクル」として、日本の農林水産は後継者難や貿易自由化による国際的プレッシャーのなかで、抜本的な発想の転換期にきている。農林水産業において、資源と環境に配慮したリサイクルによって、その困難を打開するための大胆な発想と現場に密着した提案が展開されている。

シリーズ5では、「建設事業とリサイクル」として、建設廃棄物の削減、発生した副産物の徹底した再利用、さらには他産業の廃棄物を建設資材として利用する方法などを解説している。

シリーズ6では、「地方行政とリサイクル」として、焼却・埋立処分への固執やタテ割り・規制行政など、リサイクルを疎外する現行の行政本質の矛盾を指摘し、その上で各行政局がどうリサイクルに取り組むべきか、その方向性と手法について提案・解説している。

本書の書名でもみられるように、リサイクル社会への転換の必要性とその手法を、全編イラストで理解しやすく解説されている。また、資源リサイクルに関するキーワードを各巻末に記載され、簡単な解説があり、本シリーズの他の部分に詳細な解説の掲載箇所も示されており、関連事典としても利用できるよう配慮されている。高校生をはじめとして一般の読者にとってはたいへん理解しやすく、一読され、リサイクル社会への転換が進めばと期待する。